



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

平成30年度 第3号
平成30年6月1日(金)発行
さいたま市立宮原中学校
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

環境を整える

校長 松井 聡

こんな光景をよく見ます。放置自転車のかごに空き缶が一つ入っていました。次の日になると空き缶は、二つ、三つと増えていました…。誰かが書いた公園の落書きをそのままにしていたら、数日のうちに落書きがひどいことになってしまいました…。

アメリカの路地で割れた窓を放置しておいたところ、いつの間にか次々と窓ガラスを割られたことから名付けられた理論のことを「割れ窓理論」といいます。言葉のとおり、割られたガラスをそのままにしておくと、外部からその建物やビルは管理されていないと認識され、当然の如く割られる窓ガラスが増える、波及して建物やビル全体が荒廃し、それはさらに地域全体が荒れていくという理屈です。この理論を政策に反映させたのが、ニューヨークのジュニアニー市長です。かつて、ニューヨークの地下鉄は犯罪の巣になっていました。市長は、電車に書かれた一面の落書を徹底的にきれいにし、環境を整えました。その結果、スリや泥棒などだけでなく殺人・強盗などの重大な犯罪も大幅に減少し、今ではニューヨークは安全な街に変わりました。

この考えは、学校での日頃の指導にも当てはまります。あいさつの行き交う温かい校舎、きちんと時間を守る規則正しい生活、清掃の行き届いたきれいな教室…そんな落ち着いた環境であれば、子どもたちの学校生活はさらによい方向へと向かいます。反対に、小さな落書きや紙くず一つが子どもたちの心のタガをゆるめ、いじめや非行などの問題行動を誘発することになります。

色々な学校を訪問すると、校門から校舎に入っただけでその学校の様子が何となく伝わってくるものです。環境が整えられ清掃も行き届いていると、その学校で生活している子どもたちの歓声が聞こえてくるように感じます。授業もさぞかし落ち着いて進んでいることと想像できます。反面、何となく殺風景で散らかっている学校は、きっと色々な苦労があるのだろうと考えてしまいます。

今の宮原中はどうでしょうか。整然とした集団行動、しっかりした挨拶と校歌の歌声、下駄箱のくつのかかたが揃っている…本校の自慢です。放課後、教室や廊下の戸締りの確認や安全点検に回りますが、どの学年、どの学級も教室がとてもきれいで感心しています。清掃がきちんと行われていることはもちろん、それぞれの委員や係が、点検等の自分の仕事をきちんと行っている成果だと思います。朝一番初めに教室に入る生徒は、さぞかし清々しい気分で一日のスタートを切れることでしょう。

そして、整った環境は、目に見えるものだけではありません。学校や家庭が、

- ・頑張ったことを認め、ほめてくれる場になっているか、
- ・つまずいたときにそっと手を差し伸べてくれる場になっているか、
- ・悪いことをしたときにきちんと叱ってくれる場になっているか、
- ・一緒に感動を味わえる場になっているか、
- ・安らぎを感じることができる場になっているか、等々…子どもたちにとって安心できる心の居場所、環境となっていることも、とても大切なことだと思います。

今後も、保護者や地域の皆様にご協力いただきながら、子どもたちを取り巻く様々な環境を、よりきれいで温もりのあるものにして参りたいと思います。